

科目	日常生活活動学実習	担当	山田 和政	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

本科目では、日常生活活動学で学んだ基礎的知識を踏まえて実習を進めていく。実習では、健常人の起居動作を観察し、それらを参考に、大腿骨頸部骨折(人工骨頭置換術後)、下肢切断、関節リウマチ、筋ジストロフィー、脊髄損傷、片麻痺などの疾患から生じるADL障害に対して適切なADL指導および介助方法を考え、その技術を習得する。受講者は、疾患・障害により異なるADL障害に対する基本的な訓練方法・指導内容を修得することができる。

【履修注意】

2人1組もしくはグループ単位で実習を進めていくため、無断欠席や無断遅刻によりパートナーや同グループの学生に迷惑をかけないように心がける事。

【評価方法】

期末試験(実技試験・筆記試験)にて評価する。

【試験について】

中間試験は実施しない。

再試験対象者の条件: 期末試験が60点未満の者

【予習・復習】

講義毎の実技の復習を十分に行ない、理解できなかった部分については、次の講義で積極的に質問すること。

【教科書】

書籍名: 新版日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際- 著者: 伊藤利之(編集) 出版社: 医歯薬出版

書籍名: 福祉用具ハンドブック 著者: 尋木佐一・他(監修) 出版社: 大井企画

【参考書】

書籍名: 姿勢と動作-ADLにおける扱いと手順- 著者: 斎藤宏・他 出版社: メヂカルフレンド社

書籍名: ナースのためのリハビリテーションレクチュア 著者: 鈴木諭(編集) 出版社: 文光堂

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	動作観察の実際	起居動作を観察する
2	大腿骨頸部骨折のADL	病態、障害像、禁忌肢位、ADL指導
3	大腿骨頸部骨折のADL	病態、障害像、禁忌肢位、ADL指導
4	下肢切断のADL	病態、障害像、断端管理、ADL指導
5	下肢切断のADL	病態、障害像、断端管理、ADL指導
6	関節リウマチのADL	病態、障害像、関節保護の原則、ADL指導
7	筋ジストロフィーのADL	病態、障害像、Swinyardによる8段階分類、ADL指導
8	脊髄損傷のADL	病態、障害像、髄節とゴール設定、ADL指導
9	脊髄損傷のADL	病態、障害像、髄節とゴール設定、ADL指導
10	脊髄損傷のADL	病態、障害像、髄節とゴール設定、ADL指導
11	片麻痺のADL	病態、障害像、高次脳機能障害、ADL指導
12	片麻痺のADL	病態、障害像、高次脳機能障害、ADL指導
13	片麻痺のADL	病態、障害像、高次脳機能障害、ADL指導
14	腰痛症・パーキンソン病・呼吸器疾患のADL	病態、障害像、ADL指導
15	腰痛症・パーキンソン病・呼吸器疾患のADL	病態、障害像、ADL指導
16	期末試験	1～15コマの復習・確認・まとめ